

介護ロボット全国フォーラム

福祉用具・介護ロボット 実用化支援事業の実施について

【内 容】

1. 事業の位置づけ
2. 全体の概要
3. 各事業の実施結果報告(令和5年度)

令和6年1月26日(金)14:00－14:20
公益財団法人テクノエイド協会 企画部 松本美樹子

令和5年度当初予算案 5.0億円（5.0億円） ※（）内は前年度当初予算額 ※令和4年度第二次補正予算額：3.9億円

1 事業の目的

- 介護現場の業務効率化を進めるため、テクノロジーの活用を推進しているところであるが、このためには、介護現場に対する導入資金の支援だけでなく、介護現場におけるテクノロジーへの理解を促進し、開発企業が介護ロボット市場に参入しやすい環境を整備する必要がある。
- 本事業では、①介護施設・開発企業双方からの介護ロボットに関する相談窓口や開発実証を行うリビングラボ等の「開発・実証・普及のプラットフォーム」を運営するとともに、②介護ロボットに関するフォーラム等による情報発信等を行う。

2 事業の概要・スキーム、実施主体等

（1）介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業

- ・ 相談窓口の設置（全国17箇所）
- ・ リビングラボの設置（全国8箇所）

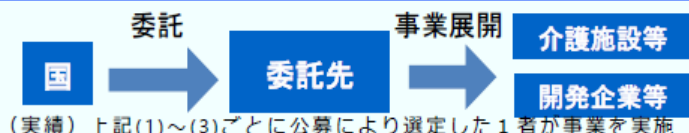
※相談窓口の設置箇所は、都道府県が設置する総合相談センターと調整予定

（2）福祉用具・介護ロボット実用化支援事業

- ・ 介護ロボット等に係る生産性向上の取組の情報発信等を行う。

※ 右記〈事業イメージ〉内の効果測定事業については、令和4年度第二次補正予算により実施。

実施主体



〈事業イメージ〉

開発・実証・普及のプラットフォーム事業

介護施設・開発企業等からの介護ロボットに係る相談・依頼に対し、相談窓口・リビングラボ・実証フィールドが各機能の特徴を生かし開発・普及に貢献

相談窓口 (地域拠点)

介護ロボットに関する介護施設等からの相談、開発企業等からの実証相談等へきめ細かに対応

リビングラボ

介護ロボットの開発実証のアドバイザーボード兼先行実証フィールドとして機能

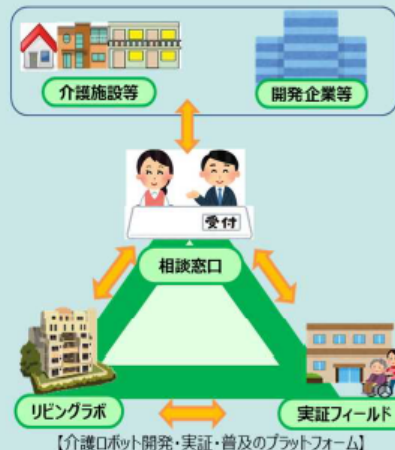
実証 フィールド

全国の介護施設の協力による大規模実証フィールドにて開発企業の個別実証依頼に対応

効果測定事業

大規模 実証

実証フィールド施設等の協力を得て、介護ロボット等導入の大規模実証を実施、検証



福祉用具・介護ロボット実用化支援事業

プラットフォーム事業の機能を補完し、介護ロボットの開発・普及の各段階にて必要となる各種支援を実施

① 地域フォーラムの開催

→相談窓口の無い都道府県での介護ロボットの普及を促進

② 介護ロボット開発企業連絡会・全国フォーラムの実施
→各種イベントにてプラットフォーム事業の取組を発信

③ 介護ロボット開発・導入の助成金調査等
→介護ロボットの開発企業・導入施設に役立つ情報の調査・策定し、相談窓口を提供

開発
支援

導入
支援

福祉用具・介護ロボット実用化支援事業

【具体的な取り組み内容(令和5年度)】

相談窓口の設置

介護ロボットの活用や
開発等に関する相談
窓口を開設

- 電話による相談
- 来協による相談
- オンラインによる相談



実証の場の整備

実証に協力できる施設・事業所
等をリストアップし、開発の状態
に応じて企業等へつなぐ

- ホームページにて募集
- モニター調査や開発実証フィールドへの
協力要請（1,267か所）



モニター調査等の実施

介護現場のニーズをふまえた
介護機器の開発支援に係る
取り組み

- 介護現場と開発企業の意見交換(10件)
- 試作介護機器へのアドバイス支援(15件)
- 介護ロボット等モニター調査(10件)



普及・啓発

国民の誰もが介護ロボットに
ついて必要な知識が得られるよう
普及・啓発を推進していく

- 介護ロボットメーカー連絡会議
- 介護ロボット等活用ミーティング
- 介護ロボット全国フォーラムの開催**
- 介護ロボット地域フォーラムの開催(6か所)
- 介護ロボット試用貸出リスト
- 介護機器の安全利用の推進 等



調査の実施

- 介護ロボットの開発・導入に係る助成事業の調査(5月、11月 年2回実施)
- 介護ロボット導入支援事業等に係る実態調査(11~12月)

開発
支援

導入
支援

福祉用具・介護ロボット実用化支援事業

【具体的な取り組み内容(令和5年度)】

相談窓口の設置

介護ロボットの活用や
開発等に関する相談
窓口を開設

- 電話による相談
- 来協による相談
- オンラインによる相談



実証の場の整備

実証に協力できる施設・事業所
等をリストアップし、開発の状態
に応じて企業等へつなぐ

- ホームページにて募集
- モニター調査や開発実証フィールドへの
協力要請（1,267か所）



モニター調査等の実施

介護現場のニーズをふまえた
介護機器の開発支援に係る
取り組み

- 介護現場と開発企業の意見交換(10件)
- 試作介護機器へのアドバイス支援(15件)
- 介護ロボット等モニター調査(10件)



普及・啓発

国民の誰もが介護ロボットに
ついて必要な知識が得られるよう
普及・啓発を推進していく

- 介護ロボットメーカー連絡会議
- 介護ロボット等活用ミーティング
- 介護ロボット全国フォーラムの開催**
- 介護ロボット地域フォーラムの開催(6か所)
- 介護ロボット試用貸出リスト
- 介護機器の安全利用の推進 等



調査の実施

- 介護ロボットの開発・導入に係る助成事業の調査(5月、11月 年2回実施)
- 介護ロボット導入支援事業等に係る実態調査(11~12月)

介護施設と開発企業のマッチングを図る

【開発企業】



○自分たちが持っている技術が介護現場で役立てられるかな？

○実際の現場でモニター調査をおこなってみたい。

テクノエイド協会



マッチング支援

【介護施設】

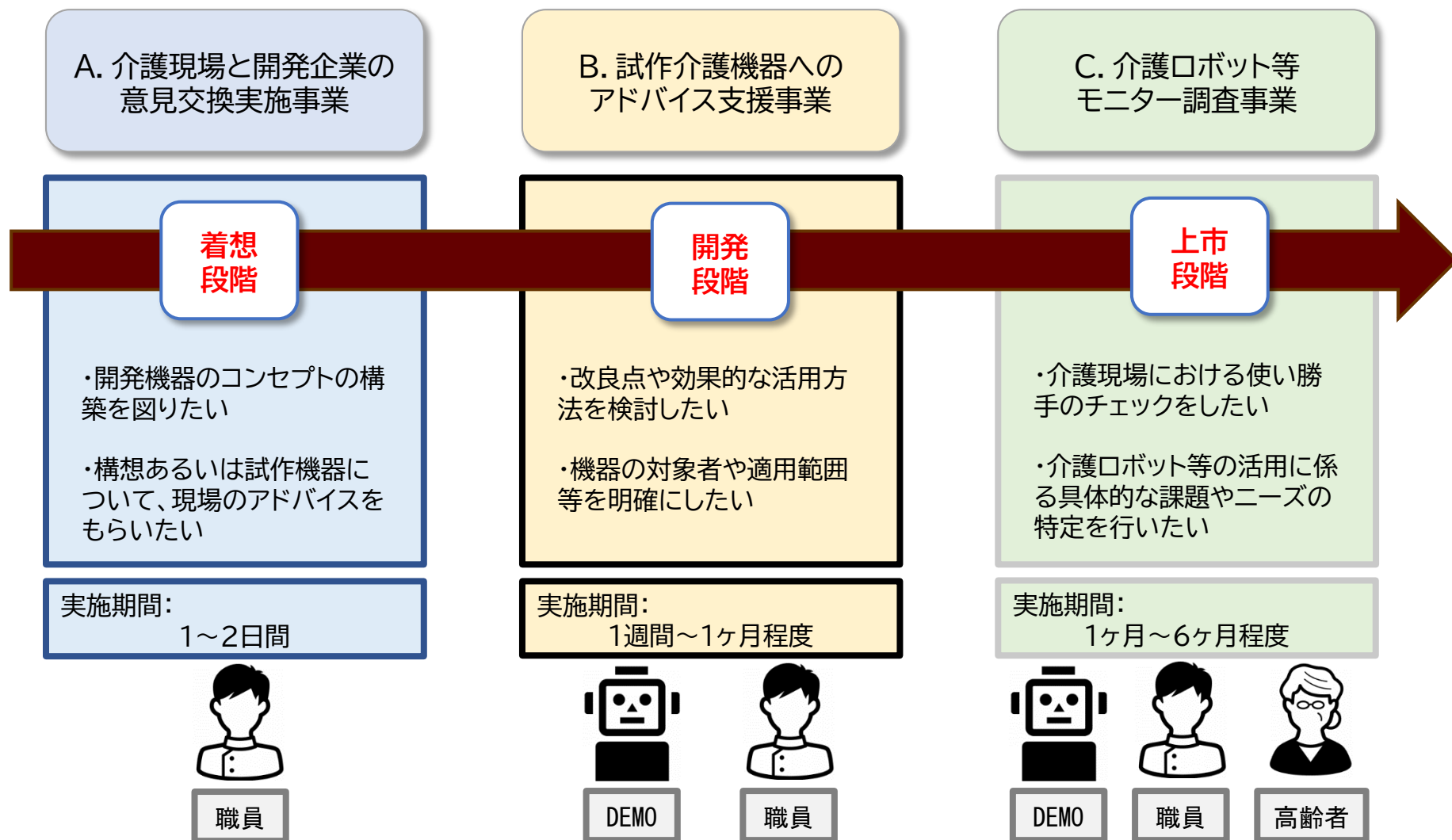


○機器開発に参加して、貢献してみたい。

○これから導入を考えているけど、新しい技術や機器を体験してみたい。

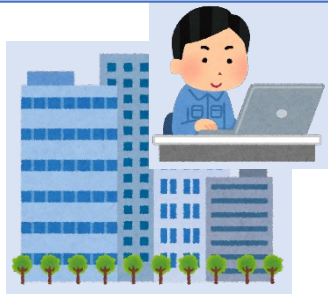
介護現場のニーズに適した実用性の高い介護ロボットの開発が促進されるよう、開発の早い段階から現場のニーズの伝達や試作機器について介護現場でのモニター調査等を行い、介護ロボットの実用化を促す環境を整備する。

開発段階に応じた 3 つの事業を実施



事業へ参加するメリット

【開発企業側】



・企業が持っているシーズを活かすための方法を確認することができる。

・現場の生の声を聞くことができる。

・開発中の試作機器を試し使いしてもらうことができる。

・成果報告の冊子に掲載されるので、幅広くPRすることができる。

・施設と繋がりを持つことができ、モニターや実証の場が広がる。

【介護施設側】



・最新の福祉用具・介護ロボットに触れることができる。

・現場の声を企業に伝えることができる。

・福祉用具・介護ロボットへの職員の関心を高めることができる。

・国の事業に参加することで、職業意識（モチベーション）や施設の魅力を高めることができる。

・実証協力費を得ることができる。

専門職が評価している場面①



専門職が評価している場面②





福祉用具・介護ロボットの開発と普及の作成



テクノエイド協会ホームページ
開発と普及

<https://www.techno-aids.or.jp/robot/kaihatsuy2022book/index.html>

本書は、開発コンセプト段階の機器から実用化手前の機器において、専門職からのアドバイスやモニター手法および、その結果を示しており、今後本分野に参入する企業等の一助となるよう情報を収録している。

第4章 介護ロボット等モニター調査事業

04-C07 歩行改善提案のためのAI歩行姿勢分析支援
システムの利用効果の検証

その他 A.I.歩行姿勢分析支援システム Senno Gait[®] (セノゲイト)

機器の概要

AI 歩行分析で作るフィギュアスケート選手用の
インソール技術で高齢者の歩行支援

手が最も効率的に高度な技を習得するための足作りに取り組んできているからである。



All rights reserved. All trademarks are the property of their respective owners. Sono Galt® (E-Z-Git)

モニタ一調査の概要

歩行改善のためのポイントに注意しながら
4週間デイサービスに通い、AI歩行分析を実施

の改善ポイントを5分程度で説明する。分析結果より、適切な靴やインソールの活用を提案。歩行の癖を改善するためのポイントに注意していただきながら4週間デイサービスに通って、時々AI歩行分析を実施した。歩行の状態に気を使いながら生活をしてもらった。

■目的:高齢者の転倒予防のために「Senno Gait[®]」を導入し、職員の日々の仕事にどの程度役立つかの優先性と貢献度を知る。

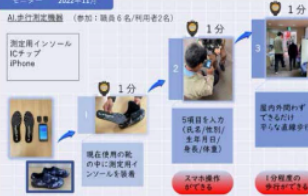
随員6名に、2名の利用者のAI歩行分析を「Senno Gait®」を実施してもらった。

iPhoneにアプリをインストールし、Bluetoothで歩行センサーと同期させた後に、サイズ別の専用インソールにセンサーを挿入。利用者の靴の中敷を外してセンサーインソールを履き込みに着替える。AI歩行分析にかかる時間は装置も含めて一人当たり3分。

分析結果を本人に見せながら説明をし、負担がかかっている体の部位や歩行

一人たった3分でAI旅行分析

王二 2023年11月



三二九一 國府樓の竣工

捐受事業者・団体

SK8INSOLL (スケートインソール) 株式会社
企画開発室
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前4-26-2B 2F(本社)
〒144-0005 東京都大田区西洋田6-32-11
城南信用金庫荏田支店3F J-Crest+H
Tel: (060) 6640-2029
HP: <https://ai-walking.com/>
<https://sk8insoll.com/>

モニター調査の結果

どうすれば歩く能力を維持できるか
具体的な提案が簡単にできた

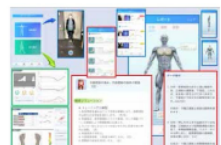
AI分析結果より、介護スタッフが適切な歩行と靴やインソールを提案し、どうすれば多く能力を維持することができるか具体的な提案が簡単にできた。

「AI歩行分析結果」が共通言語となり、施設のさまざまな役割の介護スタッフが連携をとり、一人の利用者の歩行について配慮ができるようになった。

また本人も数字が細かく出ることで、目標ができ、やる気が出ることで、周りの方にも前向きな影響があった。また、DX医学療法・DXスポーツトレーナーとして活用し、職員が高齢者に歩行の指導や運動、ストレッチを行い、

■ SOMPO ケア株式
門真光の森デイサー
〒571-0002 大阪府
2-16-

運営ができる。さらに、病院や理学療法士でも実施していない、適切な靴やオーダーメイドインソールの提案、杖や歩行具の活用方法などにも取り組んでいるため、今までの生活を少し変えるだけで手軽に歩行改善が実現できると、利用者と職員も共通した強いモチベーションを持つことができた。



実行状態から具体的に体や実行のどの部分でこうした良い変更
しく調整が指示される

千二タ一調査協力施設の声

負担軽減だけでなく介護意識にも影響を与える

専門職のいない当通所介護事業所において運動は状態の把握、立案、評価の全てが試行錯誤で、楽しく実施はしているものの、根拠や成果は曖昧だった。身体能力の維持向上は介護サービス利用の前提を問わず誰にでも必要なもので

ある。深刻な介護者不足では、一人一人の介護者への予防への取り組みはとても重要となる。

地域の中で信頼ある事業所になりたい、高齢者の課題に向き合い一統に解決をしたい。

実現のために、「今こそ介護ロボットの活用を」との思いでモニターに参加した。

「セノゲイト」を試用、その使い易さと性能に驚いた。状態、認識、対策が具体的に判り、長年悩んでいた諸問題の個別明確な解決において、

さらに職員が平二太を機に、歩行の大切さや介護予防、高齢者が目指すべき将来の生活像まで思いが向いた時、介護ロボットとは、負担の軽減だけではなく介護者の意識にも影響を与えてくれるものだと感じた。

当事業所では、「AI歩行姿勢分析支援システムセグナイト」を活用して、単に高齢者の歩行改善できるだけでなく、議員や地域住民の歩行や足に背目した健康づくりの拠点になると強く確信した。

開発
支援

導入
支援

福祉用具・介護ロボット実用化支援事業

【具体的な取り組み内容(令和5年度)】

相談窓口の設置

介護ロボットの活用や
開発等に関する相談
窓口を開設

- 電話による相談
- 来協による相談
- オンラインによる相談



実証の場の整備

実証に協力できる施設・事業所
等をリストアップし、開発の状態
に応じて企業等へつなぐ

- ホームページにて募集
- モニター調査や開発実証フィールドへの
協力要請（1,267か所）



モニター調査等の実施

介護現場のニーズをふまえた
介護機器の開発支援に係る
取り組み

- 介護現場と開発企業の意見交換(10件)
- 試作介護機器へのアドバイス支援(15件)
- 介護ロボット等モニター調査(10件)



普及・啓発

国民の誰もが介護ロボットに
ついて必要な知識が得られるよう
普及・啓発を推進していく

- 介護ロボットメーカー連絡会議
- 介護ロボット等活用ミーティング
- 介護ロボット全国フォーラムの開催**
- 介護ロボット地域フォーラムの開催(6か所)
- 介護ロボット試用貸出リスト
- 介護機器の安全利用の推進 等



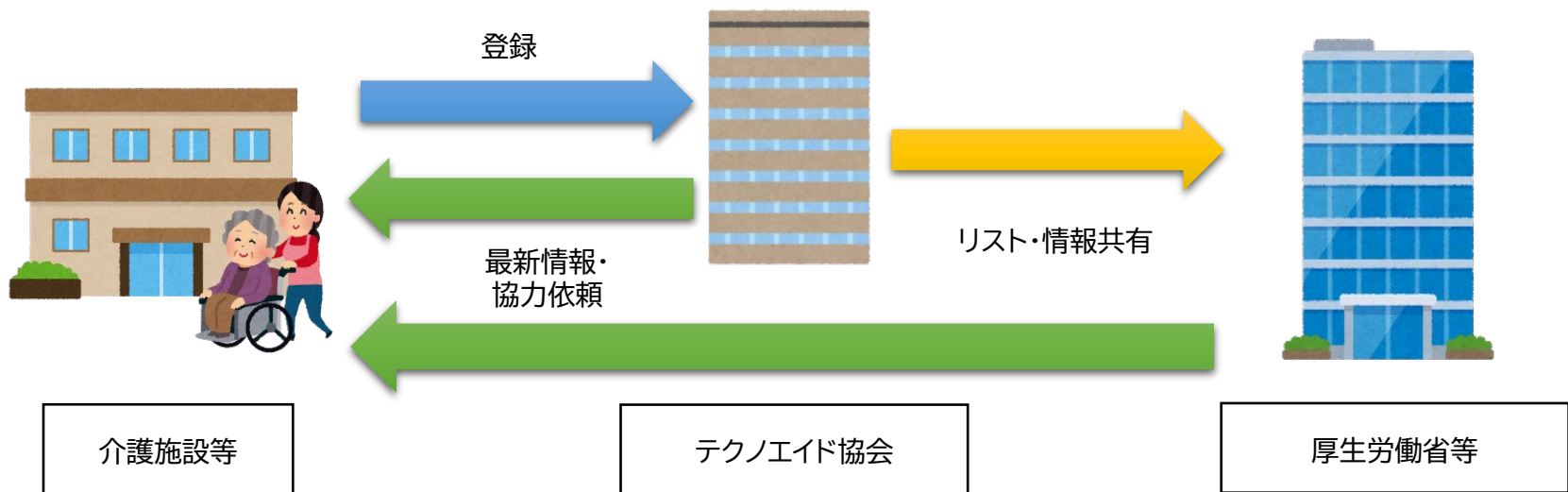
調査の実施

- 介護ロボットの開発・導入に係る助成事業の調査(5月、11月 年2回実施)
- 介護ロボット導入支援事業等に係る実態調査(11~12月)

福祉用具・介護ロボットに係る開発・実証 フィールドの整備

目的

介護ロボット等の開発・実証フィールドを募集し、介護ロボット等の開発及び、効果の検証等をより一層推進することを目的とする。



区分	件数
1. 介護施設等	1,139 件
2. 都道府県・市町村	128 件
合 計	1,267 件

【リストの活用】

- 介護ロボットの最新情報を提供
- 登録情報を厚生労働省等と共有

福祉用具・介護ロボットに係る開発・実証フィールドの整備

介護施設・事業所・リハビリテーションセンター等の皆様へ

福祉用具・介護ロボット 開発・実証フィールド の募集(登録のお願い)

福祉用具・介護ロボットの開発・普及に
かかわる情報を提供します

募集する介護施設等

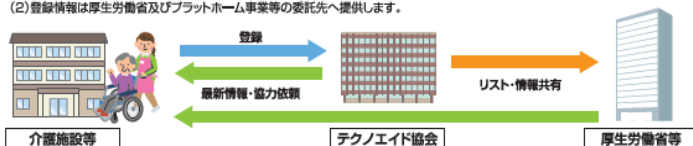
介護保険の施設・居宅サービス 関係事業者 等

・登録はサービス事業所単位となります。

・介護保険以外の医療機関や障害者施設・居宅サービスの事業者も登録可能です。

登録リストの活用

- (1)当協会や厚生労働省等から各事業の案内や介護ロボットに関する最新情報をメールにて配信します。
- (2)登録情報は厚生労働省及びプラットフォーム事業等の委託先へ提供します。



登録方法

右記 <https://www.techno-aids.or.jp/robot>

次のボタンをクリックして、登録を行ってください

テクノ 開発・実証フィールド 検索 から

介護施設・居宅サービス事業所、
リハビリテーションセンター
等の方はこちら

都道府県、市町村、介護実習・普及センター
地域包括支援センター
等の方はこちら

福祉用具・介護ロボットの 開発・実証フィールドを募集します

背景・目的

日本の高齢化は世界に例を見ない速度で進行しており、高齢者の自立支援と介護者の負担軽減、さらに質の高い介護サービスを効果的に行うためには、ロボットやICT等の技術を用いた福祉用具・介護ロボット（介護ロボット等）の開発と利活用が不可欠です。

厚生労働省では「介護ロボット導入支援事業」において、介護現場への介護ロボット等の導入支援を行っているところですが、介護現場のニーズを踏まえた開発や有効性の検証等を促進するためには、介護現場と開発企業等の連携がより一層必要とされています。

こうした背景を踏まえ、テクノエイド協会では、介護ロボット等の開発・実証フィールドを募集し、介護ロボット等の開発及び、効果の検証等をより一層推進することを目的としております。

本事業の趣旨をご理解いただき、賛同いただける介護保険の施設・居宅サービス等の関係事業者様におかれましては、ご登録いただきますよう、何卒よろしくお願いたします。

介護ロボットの開発・実証フィールドとは？

これまでと同様ですが、福祉用具・介護ロボット実用化支援事業において、開発中や上市して間もない介護ロボット等に対する意見交換やアドバイス、モニター調査に協力する意向を示していただいている介護施設や事業所となります。

また、実証フィールドとは、開発中の介護ロボットの安全性や使用効果の評価・検証等に協力する意向を示していただく介護施設等とさせていただきます。

どちらも個別の案件がある度に、事務局よりメールにて情報配信させていただきます。最終的には当該案件の内容をご確認いただき、協力の可否を判断していただければと思います。

登録対象のサービス種別等

① 介護施設、居宅サービス事業所、リハビリテーションセンター等

1. 介護老人福祉施設（特別介護老人ホーム）
2. 介護老人保健施設
3. 介護療養型医療施設
4. 介護医療院
5. 地域密着型介護老人福祉施設 入居者生活介護
6. 特定施設入居者生活介護
7. 小規模多機能型居宅介護
8. 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）
9. 地域密着型特定施設入居者生活介護
10. 看護小規模多機能型居宅介護
11. 看護老人ホーム
12. 療養老人ホーム
13. 有料老人ホーム
14. サービス付き高齢者向け住宅
15. 在宅介護サービス
16. 訪問介護・看護
17. 通所介護施設（デイサービス）
18. ショートステイ
19. 医療機関
20. リハビリテーションセンター
21. 障害者福祉施設
22. 福祉用具貸与サービス事業者
23. その他

② 都道府県、市町村等

1. 都道府県
2. 市町村
3. 介護実習・普及センター
4. 地域包括支援センター
5. その他

関連資料

福祉用具・介護ロボット実用化
支援事業 専用ホームページ



福祉用具・介護ロボットの
開発・実証フィールドの募集について
(登録のお願い)



お問い合わせ先

公益財団法人 テクノエイド協会 企画部
〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ4階

TEL 03-3266-6883
Mail monitor@techno-aids.or.jp



公益財団法人 テクノエイド協会
The Association for Technical Aids(ATA)



公益財団法人 テクノエイド協会
The Association for Technical Aids(ATA)

開発
支援

導入
支援

福祉用具・介護ロボット実用化支援事業

【具体的な取り組み内容(令和5年度)】

相談窓口の設置

介護ロボットの活用や
開発等に関する相談
窓口を開設

- 電話による相談
- 来協による相談
- オンラインによる相談



実証の場の整備

実証に協力できる施設・事業所
等をリストアップし、開発の状態
に応じて企業等へつなぐ

- ホームページにて募集
- モニター調査や開発実証フィールドへの
協力要請（1,267か所）



モニター調査等の実施

介護現場のニーズをふまえた
介護機器の開発支援に係る
取り組み

- 介護現場と開発企業の意見交換(10件)
- 試作介護機器へのアドバイス支援(15件)
- 介護ロボット等モニター調査(10件)



普及・啓発

国民の誰もが介護ロボットに
ついて必要な知識が得られるよう
普及・啓発を推進していく

- 介護ロボットメーカー連絡会議
- 介護ロボット等活用ミーティング
- 介護ロボット全国フォーラムの開催**
- 介護ロボット地域フォーラムの開催(6か所)
- 介護ロボット試用貸出リスト
- 介護機器の安全利用の推進 等

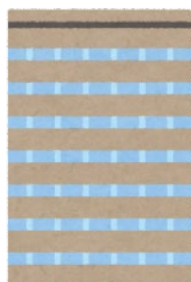


調査の実施

- 介護ロボットの開発・導入に係る助成事業の調査(5月、11月 年2回実施)
- 介護ロボット導入支援事業等に係る実態調査(11~12月)

介護ロボットメーカー連絡会議

開発企業を集め、今後の開発・普及の参考となる情報を提供する



- 国における施策の動向
- 実用化支援事業の概要
- プラットフォーム事業の紹介
- リビングラボ・相談窓口の実施内容
- 開発・普及の最前線



【令和5年度の実施結果】

開催日時	6月2日(金) 10:00~14:40
開催方法	会場とWeb(Zoom)のハイブリッド開催
参加申込数	会場104名・Web197名(事前登録)

介護ロボット等活用ミーティング

目的

介護ロボット等の導入・利活用にあたっての工夫や課題を共有化し、介護現場における介護ロボット等の効果的な活用を促し、働きやすい職場環境の構築を目的とする。

11月				
13日(月)	14日(火)	15日(水)	16日(木)	17日(金)
開催テーマ				
A	B	C	D	E
介護機器等を活用した <u>生産性向上の取り組み</u> を推進しよう	介護機器等を活用した <u>安心・安全な介護</u> を実現しよう	介護機器等を活用する <u>ICT/DX化</u> を推進しよう	デイサービス等における <u>訓練・介護機器等の導入・利活用</u> を考えよう	居宅介護サービスにおける <u>介護機器及びICTの導入・利活用</u> を考えよう

【参加申込数】

13日	14日	15日	16日	17日
227名	202名	166名	126名	142名

セッション1

- 介護ロボット等に関する最新情報
厚生労働省
- 介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム 生産性向上の取り組み
NTTデータ経営研究所
- 利活用に伴う工夫や課題、アイデア等
介護施設・企業等

個人ワーク

- 現状と課題、発言内容の整理

セッション2

- フリーに意見交換や情報交換を実施

介護ロボット地域フォーラム

目的

「介護ロボットの開発・実証・普及プラットフォーム事業」の相談窓口が無い都府県において、介護ロボット地域フォーラムを開催し、介護ロボットの体験展示や試用貸出の受付等を行う。

●実施内容:地域の実情やニーズに応じ、必須項目と任意項目から計画すること

(1)必須事項

① 介護ロボットの体験展示

※10種類程度

② 試用貸出の受付

※全国の相談窓口に連絡

③ シンポジウムの開催

- 開催地自治体の取組紹介
- プラットフォーム事業の紹介
- 最新動向の情報提供

(2)任意事項

福祉用具・介護ロボットの導入、利活用に関する地域の実情やニーズに応じて企画立案して差し支えない。

(例)

- 導入の好事例紹介
- ワークショップ
- 開発企業等によるプレゼン

介護ロボット地域フォーラムの協力機関

開催日	地域	協力機関	開催場所
10月15日(日)	佐賀県	佐賀県在宅生活サポートセンター	さがサポセンター いきいき館
10月18日(水)	長崎県	公益財団法人ながさき地域政策研究所	出島メッセ長崎1F 展示ホール
11月3日(金)	島根県	公益財団法人介護労働安定センター 島根支部	くにびきメッセ 多目的ホール
11月4日(土)	石川県	一般社団法人日本福祉用具供給協会 石川県ブロック	石川県産業展示館
12月8日(金)	高知県	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会	高知県立 ふくし交流プラザ
12月12日(火)	静岡県	公益財団法人介護労働安定センター 静岡支部	静岡グランシップ

介護ロボット地域フォーラム開催の様子

○開催の様子(佐賀県・長崎県・島根県)



○開催の様子(石川県・高知県・静岡県)





令和5年7月



<https://www.tech-no-aids.or.jp/2023rentallist/index.html>

製品の詳細
使用方法・禁忌事項
仕様・構造・コスト 等



介護機器の安全利用に関する整理・報告・発信

情報源

- 消費者安全法に基づく公表情報(消費者庁)(随時更新)
- 消費生活用製品安全法に基づく公表情報(NITE)(随時更新)
- 保険者からの情報提供(任意)
- 在宅及び施設介護サービス事業者等からの情報提供(任意)
- 福祉用具関係機関・団体等

テクノエイド協会

製品起因でない事故及びヒヤリハット情報
原因不明(調査中のものを含む)

- ① 情報のリスト化 
- ② 内容の確認(協会)
・重大事故の原因考察、分析
・類似案件等の有無確認
・関係者に対する内容確認
- ③ 要因分析、事例の作成(部会)

事例検討部会

重大事故等を未然に防止するための事例を作成し、注意喚起

協会HP

利用する人 (必要とする人)



高齢者・家族 等

介護サービス事業所

障害サービス事業所

関係団体・公共機関

開発・供給事業者



現状を踏まえた、情報共有及び有効活用に関する検討

・ 高齢者等に対して注意喚起するとともに、研修の教材や製品の開発・改良に繋げる など

介護機器の安全利用に関する整理・報告・発信

事例を探す

フリーワード 検索

全件表示

1月10日時点 397件

利用シーン から探す



主な 利用場所 から探す



169件の結果があります

1 2 3 4 >



Case 1
下に落ちたモノを拾おうとして、前方へ転落しそうになる
介護保険の項目 分科コード (CCTA95)
車いす 122106 (後輪駆動式車いす)
これは意外に多く見られている事例です。大切なモノを下に落とすことで驚かされたかもしれません。足をフットサポートから下ろさずに前方がなくなったことな...

詳細へ



Case 2
フットサポートを踏んだ状態で立ち上がり、車いすごと転倒しそうになる
介護保険の項目 分科コード (CCTA95)
車いす 122106 (後輪駆動式車いす)
高いところにあるモノを拾おうとすると足元に注意がいず、このような危険な事例が頻りにやります。フットサポートから足を下ろすことを徹底し...

詳細へ



Case 3
わずかな段差を上ろうとして、後方へ転倒しそうになる
介護保険の項目 分科コード (CCTA95)
車いす 122106 (後輪駆動式車いす)
手押しハンドルに思い切った力をかけて車いすで移動する場合、段差やより高さを移動しようとする、急な段差に気がつかず、後方に転倒しやすくなり...

詳細へ



Case 4
利用者の足がフットサポートから落ちてしまい、車いすに巻き込みそうになる
介護保険の項目 分科コード (CCTA95)
車いす 122106 (後輪駆動式車いす)
車いすには本格的なフットサポートなどの足が落ちない安全装置がありますが、自動車の部分などではそのような安全装置を付していることも多く、このような事...

詳細へ



Case 10
利用者のつま先をベッドフレームにぶつこうようになる
介護保険の項目 分科コード (CCTA95)
特殊寝台 181209 (電動バジャーズベッド)
特に姿勢が固まっていると足の先端は自動車が滑りやすくなり、先に当たることがあります。足先は自動車の先端から見えづらいので、特に注意し...

詳細へ

福祉用具ヒヤリハット事例集 電子書籍

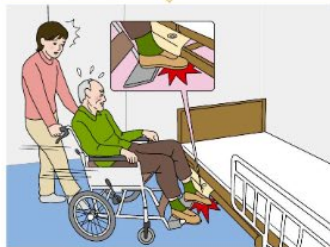
(397事例)



Case 10 利用者のつま先をベッドフレームにぶつけそうになる

場面説明

利用者の片方の足がフットサポートからずり落ちていたが、介助者がそれに気づかず車いすを操作し、つま先をぶつけた



利用シーン 移乗・移動

CCTA95 181209 電動ギャッチベッド

解説

特に姿勢が崩れていると足先は介助者が思うよりもずっと先に出ていることがあります。足先は介助者からは死角になり見えづらいので、特に狭い場所での移動には注意しましょう。クッション・パッドを利用したり、車いすを調整するなど座位が崩れない工夫が必要です。

参考要因

- 人 利用者の座位がずり落ちていることに気づかない
- モノ 車いすが利用者に合っていない
- 環境 介助者から見えづらかった

Case 26 ベッドの背を上げたところ、利用者の身体が足側に大きくズれる

場面説明

背上げ機能のみ使用していた



利用シーン 起居・就寝・リモコン操作

CCTA95 181209 電動ギャッチベッド

解説

ベッドは簡単なスイッチ操作で背もたれの上下が可能ですが、背もたれだけの操作では身体が足方向に大きくズれます。この姿勢では腹部や胸が圧迫されますので、ズレを抑えるために背を上げる前に足上げ操作をあらかじめ、身体のスレを抑えます。ただしこの操作でも背や腹に強い圧迫を感じることがありますので、自身で身体を動かさない人では、背上げの後、背とマットレスとの間に空間を作り、身体の間との摩擦を軽減する介助が必要となります。

参考要因

- 人 自分で寝る位置を調整できなかった
- 人 足側にズれない操作方法を教えられていなかった
- 人 提供者からの操作説明、注意喚起が不足していた
- モノ スズれやすい構造のベッドだった

Case 24 ベッドを下げたとき、利用者のかかとがフレームと床の間に挟まり、ケガをしそうになる

場面説明

介助者はよそ見をして、利用者の足を挟みそうな状況に気づいていない



利用シーン 起居・就寝・リモコン操作

CCTA95 181209 電動ギャッチベッド

解説

ベッドの機構により挟み込みやすさにも差がありますが、どの機種にも起こりうる事例です。傾度位になってからベッドの高さを下げる操作は極力避け、やむを得ず操作するときには利用者の足の位置に十分注意をしましょう。

参考要因

- 人 利用者の足の位置を確認していなかった
- 人 よそ見をしながらベッドの操作をしていた
- モノ 挟み込みやすい構造のベッドだった

Case 27 足側にズれた利用者の身体を、介助者が戻そうとして、ケガをしそうになる

場面説明

ヘッドボードを取り外し、利用者の頭側から力づくで手前に引き寄せようとした



利用シーン 起居・就寝

CCTA95 181209 電動ギャッチベッド

解説

このような介助は、本人の痛みや苦痛だけでなく、褥瘡（床ずれ）の発生や悪化の原因となります。また、力任せの介助は介助者の腰痛の原因にもなります。足側にズれないベッド操作方法を習得し、傾度位の修正をする際にはスライディングシートなどを用いるなど、正しい介助方法を身につけましょう。

参考要因

- 人 スズれが褥瘡（床ずれ）の要因であることを理解していない
- 人 スライディングシートなどを使わず移動させた
- 環境 正しい介助方法や適切な用具を助言する人が周囲にいなかった

開発
支援

導入
支援

福祉用具・介護ロボット実用化支援事業

【具体的な取り組み内容(令和5年度)】

相談窓口の設置

介護ロボットの活用や
開発等に関する相談
窓口を開設

- 電話による相談
- 来協による相談
- オンラインによる相談



実証の場の整備

実証に協力できる施設・事業所
等をリストアップし、開発の状態
に応じて企業等へつなぐ

- ホームページにて募集
- モニター調査や開発実証フィールドへの
協力要請（1,267か所）



モニター調査等の実施

介護現場のニーズをふまえた
介護機器の開発支援に係る
取り組み

- 介護現場と開発企業の意見交換(10件)
- 試作介護機器へのアドバイス支援(15件)
- 介護ロボット等モニター調査(10件)



普及・啓発

国民の誰もが介護ロボットに
ついて必要な知識が得られるよう
普及・啓発を推進していく

- 介護ロボットメーカー連絡会議
- 介護ロボット等活用ミーティング
- 介護ロボット全国フォーラムの開催**
- 介護ロボット地域フォーラムの開催(6か所)
- 介護ロボット試用貸出リスト
- 介護機器の安全利用の推進 等



調査の実施

- 介護ロボットの開発・導入に係る助成事業の調査(5月、11月 年2回実施)
- 介護ロボット導入支援事業等に係る実態調査(11~12月)

介護ロボットの開発・導入に係る助成調査



介護ロボットに係る助成について、開発企業に役立つ情報(シーズ側)と、介護施設に役立つ情報(ニーズ側)の双方の側面から全国調査を行い、その結果を都道府県ごとにまとめた。

○開発助成制度の調査結果: 81件

No.	都道府県	掲載件数	No.	都道府県	掲載件数
1	北海道	4件	26	京都府	3件
2	青森県	5件	27	大阪府	1件
3	岩手県	1件	28	兵庫県	1件
4	宮城県	3件	29	奈良県	1件
5	秋田県	1件	30	和歌山県	1件
6	山形県	2件	31	鳥取県	1件
7	福島県	6件	32	鳥根県	3件
8	茨城県	1件	33	岡山県	1件
9	栃木県	1件	34	広島県	2件
10	群馬県	2件	35	山口県	1件
11	埼玉県	1件	36	徳島県	0件
12	千葉県	1件	37	香川県	0件
13	東京都	2件	38	愛媛県	0件
14	神奈川県	8件	39	高知県	1件
15	新潟県	1件	40	福岡県	2件
16	富山県	2件	41	佐賀県	1件
17	石川県	2件	42	長崎県	0件
18	福井県	1件	43	熊本県	1件
19	山梨県	4件	44	大分県	1件
20	長野県	1件	45	宮崎県	0件
21	岐阜県	2件	46	鹿児島県	1件
22	静岡県	4件	47	沖縄県	0件
23	愛知県	1件	48	全 国	2件
24	三重県	0件			
25	滋賀県	1件			

※令和5年11月時点

○導入助成制度の調査結果: 67件

No.	都道府県	掲載件数	No.	都道府県	掲載件数
1	北海道	3件	26	京都府	1件
2	青森県	1件	27	大阪府	1件
3	岩手県	1件	28	兵庫県	1件
4	宮城県	2件	29	奈良県	1件
5	秋田県	1件	30	和歌山県	2件
6	山形県	1件	31	鳥取県	1件
7	福島県	2件	32	鳥根県	1件
8	茨城県	1件	33	岡山県	3件
9	栃木県	1件	34	広島県	1件
10	群馬県	2件	35	山口県	1件
11	埼玉県	3件	36	徳島県	1件
12	千葉県	3件	37	香川県	1件
13	東京都	1件	38	愛媛県	1件
14	神奈川県	6件	39	高知県	2件
15	新潟県	1件	40	福岡県	4件
16	富山県	1件	41	佐賀県	1件
17	石川県	1件	42	長崎県	1件
18	福井県	0件	43	熊本県	1件
19	山梨県	1件	44	大分県	1件
20	長野県	1件	45	宮崎県	1件
21	岐阜県	1件	46	鹿児島県	1件
22	静岡県	1件	47	沖縄県	1件
23	愛知県	1件			
24	三重県	1件			
25	滋賀県	1件			

※令和5年11月時点

開発・導入助成調査の実施結果 個票例

【開発助成制度 調査結果】 企業が開発に役立つ助成制度を閲覧できる

No.	事業の名称	実施団体	事業内容	対象者	範囲または条件	公募期間	R5予定	R4実績	連絡窓口
1	ものづくり開発・グリーン成長分野推進事業	公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター	新製品・新技術開発（既製品の改良を含む）に関する取組の費用について支援 ※介護ロボット等に限らない	下記の要件を全て満たす中小企業者、組合等。 （1）「さっぽろ道庁中原都市圏」を構成する市町村の区域内に本社を有する企業 ※「さっぽろ道庁中原都市圏」を構成する市町村は以下のとおり。 札幌市と道庁市町村（小樽市、岩見沢市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村、南幌町、長沼町） （2）設立後1年以上経過し、事業を継続して実施する見通しがあることなど	補助対象経費の2/3を補助	2023年4月5日～5月18日	採択件数：7件 総額（予定）：43,000,000円 【実績】 採択件数：8件 総額：42,990,000円 ※介護ロボット等の開発案件はなし	採択件数：2件 総額：10,000,000円	部署 公益財団法人北海道科学技術総合振興センター ビジネスソリューション支援部 担当者 電話番号 011-792-6119 FAX番号 011-747-1911 E-mail hcluster@noastec.jp HP_URL https://www.noastec.jp/

【導入助成制度 調査結果】 施設が導入する際に役立つ助成制度を閲覧できる

No.	事業の名称	実施団体	事業内容	対象者	範囲または条件	公募期間	R5予定	R4実績	連絡窓口
1	介護ロボット等導入支援事業	北海道保健福祉部福祉局 高齢者保健福祉課	介護従事者の負担軽減及び介護業務の効率化に資する介護ロボット・ICTの購入等の経費について、予算の範囲内で補助する。	介護保険法に基づく介護サービス事業者の指定・許可を受けた北海道内に所在する事業者	介護ロボット・ICTの購入、リース契約に係る経費とし、保険料、消費税及び地方消費税は含まないものとする。	2023年10月2日～10月31日	採択件数：未定 総額（予算）：1,380,133,000円	採択件数：467件 総額：759,809,000円 ※令和5年度に繰越した分は除く	部署 高齢者保健福祉課介護人材係 担当者 電話番号 011-204-5272 011-232-8308 FAX番号 hofuku.kouhuku1@pref.hokkaido.lg.jp E-mail https://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/khf/index.html HP_URL

介護ロボット導入支援事業 実態調査の実施

介護ロボット導入支援事業（地域医療介護総合確保基金（介護従事者確保分））

令和5年度当初予算額：地域医療介護総合確保基金（介護従事者確保分）137億円の内数（地域医療介護総合確保基金 137億円の内数）
※（）内は前年度当初予算額

1 事業の目的

- 各都道府県に設置される地域医療介護総合確保基金を活用し、介護施設等に対する介護ロボットの導入支援を実施し、介護ロボットを活用した介護事業所の生産性向上の取組を通じて、ケアの質の確保や職員の負担軽減等を図る。

2 事業の概要等

補助対象

- 介護ロボット
…移乗支援、移動支援、排泄支援、見守り、入浴支援など、厚生労働省・経済産業省で定める「ロボット技術の介護利用における重点分野」に該当する介護ロボット
- 見守りセンサーの導入に伴う通信環境整備
…Wi-Fi環境の整備、インカム、見守りセンサー等の情報を介護記録にシステム連動させる情報連携のネットワーク構築経費 等

補助内容

※令和2年度（当初予算）以降の拡充分（下線部以外）は令和5年度までの実施

● 補助額

介護ロボット (1機器あたり)	・移乗支援(装着型・非装着型) ・入浴支援	上限100万円
	・上記以外	上限30万円
見守りセンサーの導入に伴う通信環境整備 (1事業所あたり)		上限750万円

● 補助上限台数

…必要台数(制限の撤廃)

● 補助率

…都道府県の裁量により設定
(一定の要件を満たす場合は3/4を下限、それ以外の事業所は1/2を下限)

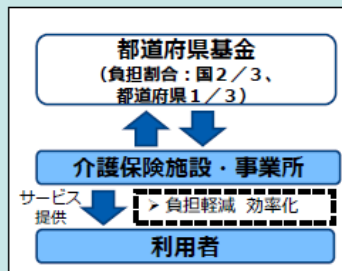
〈一定の要件〉…以下の要件を満たすこと

- ・導入計画書において目標とする人員配置を明確にした上で、見守りセンサーやインカム、介護記録ソフト等の複数の機器を導入し、職員の負担軽減等を図りつつ、人員体制を効率化させる場合

■ 対象となる介護ロボット（例）



■ 事業の流れ



■ 実績（参考）

- 実施都道府県数：45都道府県（令和3年度）
- 都道府県が認めた介護施設等の導入計画件数

H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
58	364	505	1,153	1,813	2,353	2,596

(注) 令和3年度の数値は原則R3.11月末時点の暫定値
※1施設で複数の導入計画を作成することがあり得る

介護ロボット導入支援事業 実態調査の実施

令和4年度の調査結果



9. 介護ロボット導入支援事業・生産性向上の取組の実態調査

(1) 調査目的

介護ロボットの活用を促進するためには現在の導入実態を把握することが重要である。そこで、都道府県等における介護ロボット導入支援事業等の実施状況について調査を実施した。

(2) 実施概要

調査対象：47都道府県の介護ロボット導入支援事業所管部署

実施方法：電子メールより調査票送付、電子メールにて回収

調査期間：令和4年11月25日（金）～令和4年12月16日（金）17：00

回収件数：47件

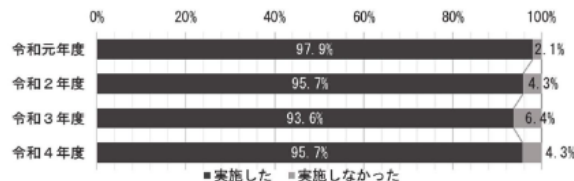
(3) 調査結果

①地域医療介護総合確保基金による令和4年度「介護ロボット導入支援事業」の実施概況

a) 介護ロボット導入支援事業の実施状況

令和4年度は45件で地域医療介護総合確保基金による介護ロボット導入支援事業が実施された。「実施しなかった」という回答は2件あり、その理由はそれぞれ地域医療介護総合確保基金以外の財源で介護ロボットの導入支援事業を実施した、予算が限られているため実施しなかったというものであった。

	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
実施した	46	97.9%	45	95.7%	44	93.6%	45	95.7%
実施しなかった	1	2.1%	2	4.3%	3	6.4%	2	4.3%
合計	47	100%	47	100%	47	100%	47	100%



令和4年度に「実施しなかった」理由

- ・予算が限られているため。[福井県]
- ・令和3年度に交付された新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用（繰越）して事業を実施しているため。[長崎県]

b) 来年度の実施予定

来年度の実施予定については、46件が「来年度実施を予定している」と回答した。

令和4年度に介護ロボット導入支援事業を実施した45件を対象に、来年度の実施予

定と実施内容を確認したところ、42件は「今年と同様に実施」、3件は「内容をより充実させて実施」と回答した。

【来年度の実施予定】

	割合	回答数	割合
来年度実施を予定している	46	97.9%	
実施の予定はない	1	2.1%	
合計	47	100%	

【来年度、どのように実施するか（今年度事業を実施した都道府県のみ回答）】

	回答数	割合
今年と同様に実施	42	93.3%
内容をより充実させて実施	3	6.7%
テーマ、分野を絞って実施	0	0.0%
実施しない	0	0.0%
合計	45	100%

「内容をより充実させて実施」と回答した場合の具体的な内容

- ・ロボットの活用事例等を積極的に他施設へも周知していきたい。
- ・見守りセンサー導入に対する補助基準額の引き上げ等。
- ・予算を増額させて実施予定。

ご清聴ありがとうございました。

介護ロボットの相談も承っています。

【お問い合わせ先】

公益財団法人テクノエイド協会 企画部

電話:03-3266-6883 メール:robocare@techno-aids.or.jp

テクノエイド協会

検索

